

真夏の涼を求めて。

H24.9.29,30
高輪学園高学祭

著者：高2生有志・柴田
団体：旅行・鉄道研究部旅行班
印刷：旅行・鉄道研究部HP班

協賛：呼んでないよ！！

Special Thanks
:そんなのいないよ！！

「恋人は？ホッ」：いても言わないよ！！

ここから先は、柴田という青年の旅行記になります。
一部不可解な表現と、鉄道から大きく外れた内容が
何ページにもわたって書かれています。どうか、
温かく読んでいただくと幸いです。

柴田

_____では、始めましょうか。

**駐車場初心者で作った
趣味丸出しの
拙い手書き駐車場でもが
それでも良いという方は
どうぞ進んでください。→**



S2A 柴田 知槻

高2の夏。学生人生最後の、気楽ななつやすみである。
そこで、私は5月頃に、(ひょっとしたら人生)最後の鉄道旅行を計画し始めた。

そして7月、チケットを順々に取りに行き、結果、
希望のチケットをすべて確保することに成功する。さらに1ヶ月経った、

8月。ついに決行した。

ここでは、私、旅行班班長の柴田の旅行記を綴っていきます。

途中、(*)が付いた項目は、旅行記の後記の部分でちょっとした解説をしています。

[※]次のページから、この旅行記が始まります。👉👉👉👉

~~今回の停車場は、ちゃんとした薄い本になりそうだね！！よし、増産だ増産だ！！~~(え

3かめ 8/6 月 Mon.

なぜ3日目から？と思う方もいるかもしれない。

実はこの旅行、鉄研旅行と繋ぎで行けるように計画したのである。

元々は、私が作った夏期旅行案の前で行くことができるように組んだのだが、私の旅行案は、残念ながら採決で通らなかったため、急きょ案を練り直した結果、鉄研旅行組から別れて向かう旅行になってしまったのだ。

・・・というのが、今回の旅行の成り行きである。

ということなので、3日目の朝までは、鳥越君の鉄研旅行記を先に見てほしい。

さて、旅行記に入りましょうか。

———新大阪駅到着。ここから柴田の旅行は始まった。

鉄研旅行組から別れた後、まずは朝食を探す。選んだのはコンコースの蕎麦屋。

380円できつねを頂いて、さて、列車に乗りに行こうと、11番線に向かった。

↓乗車列車↓

7:35新大阪駅 特急くろしお1号→→→→→→→→→→→→→→→→紀伊勝浦駅 11:31

新大阪止りのくろしお2号の回送後、7時半頃に列車は11番線に入線。

いわゆるオーシャンアロー車両、283系だ。
指定された座席は、1号車1番D席(*1)。

そう、パノラマグリーンである。

しかし、実際に座ってみるとわかるが、
結構座席がガタガタする。

どうやら転換の留まりが悪いらしく、
体を動かすと、座席が転換方向に揺れる。
走行中は大丈夫なので許すけれども。



特急くろしお1号 新大阪駅11番線にて

そして7時35分。くろしお1号は定刻通り新大阪駅を発車した。

といっても、最初の城東貨物線内では、速度は20km/hほど。遅すぎてライラが溜まっていく。
しかし、大阪環状線に入り、天王寺を過ぎれば阪和線。速い所では自慢の130km/h運転。
かつてのトラウマである紀三井寺駅も、まさに一瞬で通過してしまった。(昨年度停車場参照)
振り子も起動させ、車体を大きく傾かせて、くろしお1号は走る。前面展望も最高だ。

それにしても景勝地が多いなぁ……、きっと、アナウンスする車掌の側も大変なのだろうなぁ……

途中、白浜で後3両を切り離し、11時31分、くろしお1号は紀伊勝浦駅に到着した。

紀伊勝浦では、グリーン車の乗客の半分以上が降りた。彼らがどこへ行ったのかは、

私にはわからないが、私は、ここから那智滝へ向かう。

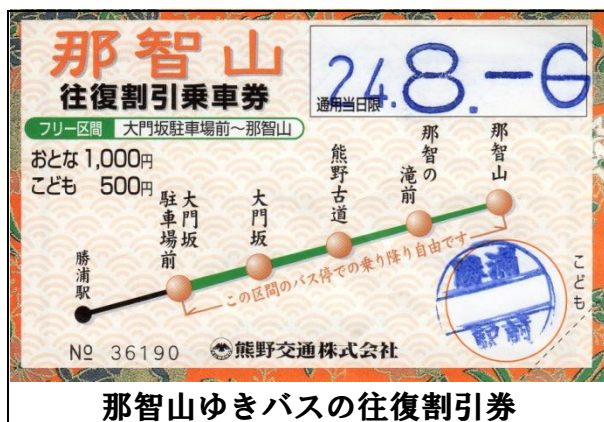
駅前の熊野交通バスセンターで、バスの往復割引券(往復で200円割引)を買って、11時50分発のバスに乗りこむ。

那智滝まで約20分。バス停からは……

「あれって……那智滝！！？」

バス停から見るとは、とんでもない大きさである。あれほどまでに大きい滝、私の経験では、あとは層雲峡、或いは袋田瀑くらいしか見たことがない。

(実は、称名滝は実物を見たことがないので)



大きいなあ、神秘的だなあ……、神々しいなあ……！！(青年談)

那智滝(日本の滝百選) ☞

また、日本三名瀑のひとつにも数えられる、日本屈指の名瀑。ちなみに、世界遺産でもある。



ああ、時間が経つのも忘れる……！！

しかし、時間はそれを許さない。急ぎ那智大社に登り、熊野古道の入口だけ入り、土産を買って、那智滝バス停で預けた荷物を回収した上で、15時05分発のバスに乗り込んで、再び紀伊勝浦駅へ。

駅前の店で、「さんま寿司」(630円)という駅弁を買ったのだが、その時の財布中の小銭は、1円玉だらけという悲惨な状況。100円玉と10円玉が取出せなくて四苦八苦していると、その駅弁屋のおばあちゃんが

「600円で良いよ」

と言ってくれた。口には出しませんでした、すみません、恩に切ります……！！

(ちなみに、さんま寿司もよいが、めはり寿司もよい。どちらもほぼ同額、また、那智勝浦町名物である。)夕飯代わりの駅弁を買ったのち、乗車券・特急券を見せて駅に入り、帰りのくろしお号を待つ。

15:57 紀伊勝浦駅 特急くろしお28号京都ゆき→→→→→新大阪駅 19:51

いやまゝ、さすがにかえりは普通車ですよ。
これはこれで悪くありませんでしたが。しかし、
鉄研旅行での長い不眠時間が重なって眠気が。
新大阪を寝過してしまうのではないかという
不安に駆られてしまったので、乗車録だけ書いて、
携帯電話でアラームを到着直前にセットして、
とりあえず可能な限りの睡眠を取ろうとする、が。……、1時間しか眠れなかった……

NO PHOTO
写真なんてないよ！！！！
いや、いくらなんでも、
寝ぼけ眼では撮れませんって……

とうとうあまり眠れないまま新大阪駅に到着。11番線、新大阪駅の北端ホームである。

↓次の列車↓

20:05 新大阪駅 特急こうのとり23号福知山ゆき→→→→福知山駅 21:56

14分乗り換え。ホームは駅の逆側の端なので、重い鞆を引きずりながらの移動は大変だ。
列車は既に停まっていて、客も(時間のせいなのか)少ないながらも乗っていた。



新大阪駅 17・18 番線にて

左は最終のスーパーはくと13号。右が今回乗ったこうのとり23号。まだ後に2本ある。

指定された座席は1号車3番A席。グリーン車だ。日本唯一の「クモロハ」車だが、
夜のせいかモーター音が少し響く他は、特に音もなかった。車内が静かなのは大変有難い。
新大阪の時点では乗客は私一人だったが、大阪から一人乗って来た。まゝ、
どうやら新三田までらしいが。私もその人も、前の座席を転換してその上に足を乗せる。
そこには謎の世界が広がっていた、ように、今では思える。

新三田でその人が降りると、グリーン車は私一人に。途中で暑かったので毛布を片づけた。
しばらくして車掌が来て、「暑いですか?冷房、少し強くできますけど」と訊いてきた。
正直、暑いのは自己責任な上、関西の電力需要が逼迫しているという話は有名なので、
「いえ、大丈夫です」と言ったが、柏原を出た辺りで寒くなって来た。設定下げたな……!?

——まゝそれはともかく、グリーン車はサンダーバードとほぼ同じもので、超快適な座席だった。

終点目前、黒井駅で列車交換をしたが、対向の大阪ゆき普通列車が5分ほど遅れたためにこの列車も発車が5分ほど遅れてしまい、終点・福知山駅に到着したのは22時01分頃。時間も少し過ぎているので、やや急ぎ足でホテルに向かう。入った後は、特に何も考えず、シャワーだけ浴びて、そのままベッドに入って眠ってしまった。

→→4かめへ→→

4かめ 8/7 火Tue.

起床は朝6時20分。時間があまりないので、急いで洗顔して着替えて荷造りを済ませます。そして6時47分頃にチェックアウトして、急ぎ足で福知山駅に向かう。

↓乗車列車↓

6:54福知山駅 普通宮津ゆき→→→→→→→→→→→→→→→→宮津駅 7:39

座席がなぜか特急並みで驚いたけれど、調べてみると普通の転換クロスシートのような感じでした。そして宮津で降りて、歩く。とにかく歩く。……。……。迷った。とある神社前で偶然見つけた地図を確認すると、まったく違う方向に進んでいたの、大通りまでいったん戻る。しかし、そこで力尽きてしまったので、ローソンに入って朝食を買って裏で食べていた。いえ、店内の休憩所で。疲れを回復させたところで、ローソンを出る。KTRの高架を潜ったところで、宮津高校の横を通ると、案内板があった。→「金引の滝 1km」……。遠いなあ……

実際、徒歩でいくには少々遠い。かなりの急坂を20分登り、さらに遊歩道を約10分、急坂は途中から宮津北部に抜ける林道に代わり、やがて道も非常に悪くなっていく。それでも、滝はその苦労を洗い流してくれるほどに綺麗だった。軽く水浴びをしてみたが、流芯の水の勢いは非常に強い。流芯付近に手を差し伸べると、巨岩を落とされたような圧力が手の上に落下してくる。痛い。あとでTwitterを確認したところ水浴びをしていたのは約15分ほどであったらしいが、実際はもっと長く感じていた。自然の神秘とは怖ろしい……



道中には、このような標識もあった。

復路は、ちょうど良いタイミングでバスがあったので、それに乗って宮津駅まで戻った。周りはおじいさんおばあさんしかいなかったな……。 (遠い目) まあ、仕方ないよねと。

そのあと、時間がかなり余ってしまったので、理由もアテもなく、天橋立へ行ってみた。

金引の滝(日本の滝百選)

天と地を繋ぐ原点ということで、日本の滝百選に選ばれたらしい。基準が実によくわからない。
(遠望で本当にすみません、横幅すごく広いんです、本当です)



しかし、天橋立へ行ったところまではよかったのだが、暑い。さすが日本海側の沿岸地だ、とふと思ってしまった瞬間である。

しかし、天橋立の松林を歩くのは良いものの、地上からでは天橋立の絶景が全く分らない。**やはり丘の上から見ないと駄目なのだろうか？誰か地上から絶景が見える場所を知らないだろうか？**などと言ったところで誰も助けてくれない。まっ、当然のこと。

……と、天橋立を50分ほど楽しんでお土産を買ったあと、天橋立駅に戻って切符を買い、これから乗る列車を待つ。しかし、特急券を宮津からしか持っていなかったの、改札で係員に少し怪訝な顔をされたが、なぜか通った。

いや待って、なんで通るの？

とまっ、細かいことは特に気にせず、たんごりレー号に乗って一気に福知山へ向かう。列車内に、ものすごい腹の立つカボッチもいたが、まっ、特に気にすることなく、無事に福知山に到着。

ここで乗り換えになる。しかし、お客がせわしないなっ……。関西人って、みんな基本的にはあんな感じなのかなっ……。(実にわからない)



特急たんごりレー8号(と同型の列車)・大江山浪漫号
天橋立駅にて

11:46 天橋立駅	特急たんごりレー8号福知山ゆき	→→→→→	福知山駅	12:27
12:42 福知山駅	特急きのさき14号京都ゆき	→→→→→	京都駅	14:05

続いて乗ったきのさき号では、特筆することはなかった。乗車中、ずっと車端部の「」で携帯電話を充電していたので、Twitterでのツイートが1時間ほど途切れていたくらいか。嵯峨野観光鉄道を眺めていると、いつの間にか京都の中心地に入って、終点に着いていた。

このあとは、岐阜駅までずっと普通列車に乗った。
 少し位、こういった呑気な旅行も悪くないと思う。
 ……とは思うのだけれど、
やっぱり普通列車は座れない……(仕方ない)
 とはいえ、座ればかなり良い座席で、
 南草津から座れて以降、半分寝ながら乗っている
 うちに、終点、野洲駅に着いていた。ここで
 普通列車に乗り換えて、米原まで行く。その先は
 JR東海区間に入り、大垣まで向かう。

大垣まで着いたあとは、まず昼食として
Mister Donutsに入り、そのあと往復切符を買って
 養老鉄道に乗った。

養老鉄道の養老駅で列車を降りて、ここから
 40分ほど山道を登る。(大荷物を引きずりながら)
 既に陽は山の裏に沈み、急がねばならない状況下、
 キャリーバッグを担ぎながら山道を登る。
 途中、家族らしい大人たち3人組と出会い、
 なんだか色々話した、ような記憶がある。

おじさん「いやぁ、長いね」 私「ええ」
 おじさん「その荷物重そうだね」 私「そうですね」
 私「暗くなってきましたね」 おじさん「そだねえ」

そういった会話だったような。

そうこう話しながら歩いているうちに、
 養老の滝前に着いていた。先客(デート)がいて、
 撮影するのが少し「……」だった。

崖を滑ったり、滝壺に潜ったり、激流に流れたり、
 そういう無茶もしないと、
 よい写真は撮れない……ほどではないが、した。
 はい。

※養老の滝については次のページで書きます。☞



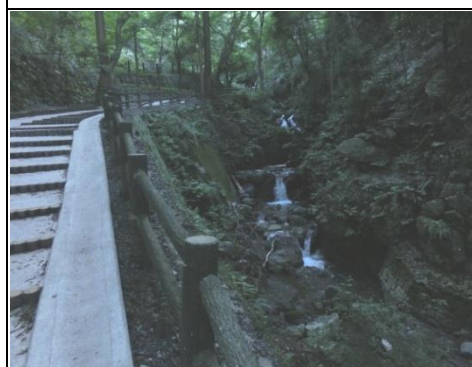
特急きのさき14号京都ゆきと回送列車
 福知山駅にて

普通列車の写真は撮ってなかった……orz
 それは私が興味がないことの表れなのだろうか？

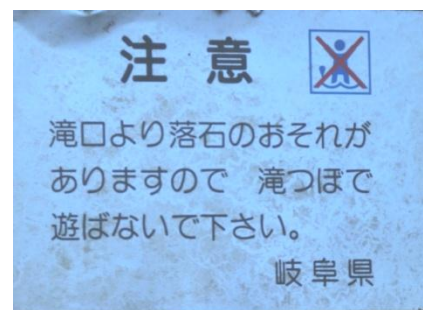
NO PHOTO



養老鉄道 養老駅にて



養老の滝 道中(上)と注意看板(下)



養老の滝(日本の滝百選)

元正天皇の時代、この地域に薪売りの貧しい男がいました。その父親は大変なお酒好きで、男はいつも瓢箪を持ち歩き、お酒を買っていたのだとか。ある日、苔むす山の中で転んだ男は山中からする酒の匂いに気付き、周りを見回すと、なんということでしょう、石の隙間から、とてもおいしい、お酒のような水が湧いていたのです。そして男は毎日その水を持ち帰り、父親を喜ばせていたそうです。やがてこのことは天皇の耳に入り、わざわざ訪れた元正天皇は、これを「男の孝行を、神様がおほめになられたのです」とおっしゃられて、元号を「靈龜」から「養老」と改められ、またこの滝を「養老の滝」と名付けられました、というお話。(一部割愛)



しかし、失礼ながら、この滝に百選の迫力は感じにくかった。ああ、神話のお陰なんだな、ということがよくわかる。

そのあとは、養老鉄道で大垣駅に戻り、そこから東海道線で岐阜駅に向かい、ホテルに入った。途中で、米持氏(HP 班班長)がながらに乗って東京に帰る(*2)とのことで、見送りにと思ってホテルをいったん出、岐阜駅に入って彼を見送りに行った。かなりいろいろ言われたが、とりあえず、4日間おつかれさまです、とあの時は心の中で言い続けた。

米持先輩すみませんでした。

大変すみませんでした。

あとは適当に PC を使って、明日の予定を再確認したあと、まっ、なんというのか、適当なところで寝てしまいました。ただ、枕が素晴らしく良いもので、実にぐっすり快眠できたのはよく覚えています。

→→5かめへ→→



特急しらさぎ15号 岐阜駅にて

5かめ 8/8 水 Wed.

朝は6時すぎに起きた。これまでと比べるとかなりの寝坊である。
洗顔して歯を磨いて、PCをやり続けたあと、無料朝食を食べにロビーへと向かう。
今回の旅行で、朝の時間の余裕が存在するのはこの日だけだったので、とにかく、存分に朝食を頂いてきた。満腹を少し超えるくらいにまで。(その後、しばらく胃もたれが続きました)
食べたあと、もう一度歯を磨いて、PCを片付け、ホテルを出て名鉄岐阜駅に向かった。

12:48名古屋駅 特急ワイドビューひだ11号富山ゆき→→高山駅15:05

ちなみに、背景画像はホテルから見た、朝のJR岐阜駅である。



名鉄岐阜駅まで歩く途中で、接続バスを見たりなど、東日本ではまずあり得ないものを見られ、また名鉄岐阜駅手前のBTで若干迷ったりなどしたが、無事に名鉄岐阜駅に到着。
名鉄岐阜駅でとある方と会ったのち、特急中部国際空港 Centrair ゆきに乗って、名鉄名古屋駅へと向かった。途中で急行豊橋ゆきに乗り換え、なんとか名古屋駅に辿り着いた。
手間取りながらも岐阜から名古屋までのJRきっぷを払い戻した後、名古屋駅11番線へ。

隣りホームに来たセントラルライナーを撮ったのち、やがて11番線にやってきたワイドビューひだ7号に乗る。

指定された座席は10号車1番C席。
パノラマグリーンの最前部席である。
付帯設備はオーシャンアロー同様、やや貧相だったが、まあ、パノラマ第一。
その程度は諦めてしまう。



特急ワイドビューひだ7号 名古屋駅にて



⇒道中では、このような風景も見られた。

(このページでは、右側に、撮影した名鉄の写真を主に張っていきます)

名古屋を発車したのち、ひだは東海道線を途中、岐阜まで走る。こうみえて、岐阜までの時間は、実はしらさぎより短い。しらさぎが23分のところ、このひだ号は18分で抜けてしまう。実は意外とハイスペック、それがこのJR東海オリジナル第一号、ワイドビュー特急、キハ85系なのだ。

.....

岐阜に着くと、車掌が運転台を離れる。これは、ここ岐阜で進行方向を変えるため、ここまで最後尾だった10号車グリーンは、ここから先は先頭車になる。

岐阜駅を出ると、高山本線に入り、東海道線の高架下を潜ると、地上に降りる。それでも、しばらくは住宅地の中を走るのだ。せめて、美濃太田までは電化するべきでは、というのは私の意見である。そうすれば、313系が入れて、美濃太田で運用がかなり区切られているこの高山本線では、中央線・東海道線等と共通運用が取れるようになるので、列車運行上の障害が大きく減るのでは、という意味ではあるが、今なお電化しないということは、実際はそうでもないのだろうか。

……と、素人の雑談はここまでにして、まァ、ものすごく驚いたことといえば、下呂が綺麗に晴れていたこと。……そのくらいですかね。

あとは、下呂手前の少々野信号場という所で撮影をしてみました(次ページ写真)果たして出来はどうなのでしょう。

最終的に、高山駅には定刻で到着しました。



名鉄特急 国府宮駅にて



名鉄μスカイ 国府宮駅にて



名鉄パノラマ Super 国府宮駅にて



セントラルライナー 名古屋駅 10 番線にて

13時05分に高山に到着した
ワイドビューひだ7号は、高山駅で
うしろ3両を切り離し、そして
高山から先はまえ3両編成で
終点・富山まで運転される。

……で、高山で降りたわけですが、
うっかり忘れていたことがひとつ。

バスとの接続時間5分だった；
ええ。

見事に行かれました。

もっとも、乗れていてもきっぷが
買えていなかったので、結局の処、
精算が面倒になるだけ……なので、
まァ、別に良かったのだろう、と。
ということで窓口に出向き、ひとまず

目的地までの切符を購入して、バスに乗車した。普通の路線バスの車両と同じだったが、
車内は高速バス然だった。いや、むしろ高速バス。ピッチが狭いだけで、ほぼ高速バス。
実に快適に平湯BTまで到達できた。

もっとも、地獄はそこからなわけで。

当然のことながら、BTから目的地まではそれなりに歩く。BTから徒歩15分なので、
まァ、上り坂を約1kmは登る計算。なかなかの辛さ。

それでも、その先に楽園が待っていると思えば……！！！！

(……でも辛かったです)

ということはさておき、上り坂を本当に
15分登って、途中から送迎バスに乗って滝下へ。

そして見えたのは、壮麗な直瀑の姿だった。

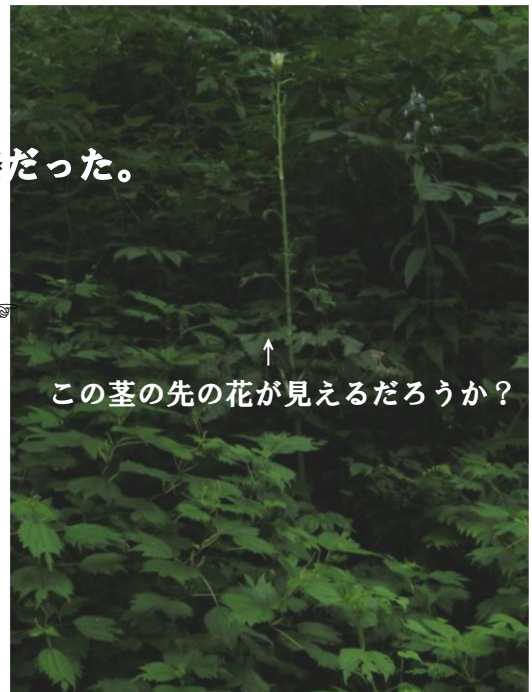
一人で見惚れていたたいのは山々だが、さすがに
百選の人気処。ひっきり無しに人が来る来る。
滝以外に撮れたものと言えはこのくらいのもの。☞

この花は、これまで調べることもできなくて、
実は未だに何の花なのか謎である。
ええ、少なくとも、私の中では。



振り子全開中！(?)

特急ワイドビューひだ8号 少ヶ野信号場にて



↑
この茎の先の花が見えるだろうか？

平湯大滝(日本の滝百選)

白猿伝説というものがあって、
それを読むと、信玄の隠れ湯だと
いう事が、素人目でもわかる。
内容はありきたりなので、今回は
省略する方向で。すみませんが。

写真では分かりにくいのですが、
これでも、落差は61mあります。



平湯とはこんなところでした。

まゝ、あとは平湯から特急のバスで松本まで出て、ホテルに入ったのち、
松本駅と周辺地域を散策して終わりました。(うしろめたい気持)

→→6かめへ→→

6かめ 8/9 木 Thu.

最終日。しかし、帰る前に一カ所、寄りたいところがあったため、あえて松本でいったん泊ったのである。起きたのは、5時20分くらいだった。急いで身支度を済ませてホテルを出、向かうは松本駅2番線。そこに止まるは、あの8時ちょうどのあずさ2号である。ちなみに、松本発車時刻は6時08分。8時ちょうどの大月駅を発車した頃だ。



かつての8時ちょうどのどこへやら……
特急あずさ2号 松本駅にて

6時08分、定刻に松本駅を発車して、向かうは、山梨県北杜市、長坂駅。

このあずさ2号は、定期列車の特急で、長坂駅に止まる唯一の列車である。

この日、松本から塩尻までは130km/hで走り抜け、塩尻からは100~120km/hで走っていた。そして、長坂駅に到着し、いろいろと撮影したあと、下り普通列車に乗って小淵沢まで戻る。

6:08 松本駅	特急あずさ2号新宿ゆき	→→→→→→→→→→→→→→→→	長坂駅	7:02
7:18 長坂駅	普通松本ゆき	→→→→→→→→→→→→→→→→	小淵沢駅	7:25
7:50 小淵沢駅	普通小諸ゆき	→→→→→→→→→→→→→→→→	清里駅	8:15

そして小淵沢からは、キハ110系の小諸ゆきに乗る。なんだかんだで結構混んでいた。中央線と別れ、シラカバ林を走り、吐竜の滝を左手に見て、8時15分に清里に到着。

駅でバスを調べたあと、バスに乗って滝近くのバス停まで行く。もっとも、滝近くと言ってもそこはまだ滝まで30分以上歩く場所なのだが……

.....

とまあ、30分、県道の山道を歩いて、滝入口の階段を下りると、そこには、なかなか豪快な直瀑が私を待っていた。



小海線キハ110系110-119 小淵沢駅にて

まあ、当然というか、百選となりえる要素はどこにもなく、滝自体も、今まで観てきた百選などと比べればずっと貧相である。

(すみません北杜市さん大学上がったら北精進ヶ滝・九段の滝・南精進ヶ滝・篠沢大滝など、必ず観に行くので許して下さい)

ちなみに、()内の滝は、すべて山梨県北杜市に所在する、落差が50mを超える超巨大滝で、なかでも、北精進ヶ滝は日本の滝百選のひとつであり、石空川溪谷という景勝地に所在する。

(念のため言っておくと、この(清里)大滝は日本の滝百選ではない、**ここ重要**)

大滝というのは一応二段の滝で、階段の途中で二段目が観えるが、林の隙間からの遠望になる。

清里大滝



まあ、悪いとまでは言わないが……
今まで観たことのある柱状節理の滝に、
浄蓮の滝(静岡県・日本の滝百選)という
滝があるので、どうしてもそれと
比較してしまう。当然勝てるわけもない。
正直、柱状節理ではないが、まだ
夕日の滝(神奈川県松田町)の方が綺麗。



(あ、洒水の滝はいつ通行止解除されるのかな……)

↓二段目は、こんな感じだった。↓

「日本百名山(*3)」に選ばれなかった山の中には
「日本二百名山(*3)」に選ばれたものもあるが、
日本の滝百選にも「日本の滝二百選」という
ものがあってもよいのではないか。
私ならば、夕日の滝や白糸の滝(山梨県)などを
推したい。もちろん、私は滝を求めて
全国行脚しているわけではないので、二百選を
選ぶとするとどうも地元ばかり選んでしまう。
ああ、もっと滝巡りしたい……、……、……



しかし、地獄はその帰りだった。

(書くと長いので省略しておこう)

清里駅に戻り、昼食を食べるためにかの有名な
清泉寮に向かう。あ、清泉寮知っていますか？

.....

この日の清泉寮は、幼稚園やら小学校やらの
団体がたいへん多く、足元をちびっ子たちが
何回もかけていくので、普通に歩いていても
うっかり蹴ってしまいそうで怖かった。

ここでは地元特産豚のホットドッグを食べ、
また、いろいろな乳製品も食した。なにより、
牛乳が飲める幸せ。それを再体感した。



帰りの小淵沢ゆきに乗り、再び小淵沢まで戻るのだが、この日は……**外国人多すぎ！！**

うわあああ！やめろ！やめてくれ！耳元で英語を喋らないでくれえええ！！(頭フラフラ)
……ということもありながら、列車は終点・小淵沢駅(その日3回目)に到着した。

14:01 清里駅	普通小淵沢ゆき	→→→→→→→→→→→→→→→→	小淵沢駅 14:23
14:30 小淵沢駅	普通高尾ゆき	→→→→→→→→→→→→→→→→	甲府駅 15:21
15:25 甲府駅	特急かいじ116号新宿ゆき	→→→→→→→→→→→	新宿駅 17:06

小淵沢駅からは、どうやらほとんどの人が1本後のあずさ20号に乗るらしい。まあ、当然だろう。それが東京まで一番速いのだから。しかし、頭の悪い私は先発の普通高尾ゆきに乗っていく。特急より6分先発だ。途中、日野春で前述のあずさ20号に抜かれ、韭崎・竜王などの都会を抜け、ほぼ定刻通り甲府駅に到着した。私はここで、後発のかいじ116号に乗換える。あずさ混んでたなぁ……などと考えつつ、かいじ号に乗車する。乗ったのは、中ほど、8号車12番D席で、終点・新宿まではおよそ1時間40分の末路である。先程の普通列車は甲府でこの列車の発車を待ってから発車する。17分停車らしい。

……1時間半後……

とまあ、途中は省略するとして、やはり甲府はまだ東京に近いということ、今回ひしひしと感じた。17時06分。かいじ116号は終点・新宿駅に到着した。

私の旅行計画自体はここで終わり、あとはもう家まで帰るのみである。そこから先が戸惑ったところで、ここまでかなり余裕持った予定を組んでいたことで数日間発車時刻に困ったことがなかった為、キッカリ定刻で動く都心の列車と東京のうだるような暑さに苦しんだ。しかし、それらにもめげず、最終的には、無事、家に帰りつくことができた。



小海線キハ112-110 小淵沢ゆき 清里駅にて



中央本線 普通高尾ゆき 小淵沢駅にて



特急かいじ116号 甲府駅2番線にて

9月になってもあの涼しさが忘れられない……

: 後記 :

滝は、全国に数え切れないほどたくさんあります。

一般的に知られているのはほんの僅かにすぎません。

仮に百選に選ばれなかったからと言って、決して美しくない滝だ、ということでもありません。

なにより、「滝なんて東京から遠い山奥にしかない」などというのも全くの誤解です。

実際に、東京都内・奥多摩にも、弘沢の滝という日本の滝百選がありますし、
ほかにも百尋の滝、梅沢大滝などという大きな滝が都内・奥多摩にあります。

少し東京を離れば、日本の滝百選・洒水の滝(神奈川県)や、同・仙娥滝(山梨県)、また、
静岡でも百選として白糸の滝(富士宮市)・浄蓮の滝(中伊豆町)等が候補として挙がってきます。
ま、これはだれもが知っているはずの華厳滝(日光市〈旧日光市〉)も候補に出てきますね。
これらはすべて東京からも2時間程度で行け、尚且つ駐車場から滝までが近い(5分以内)ので
涼を受けるにはもってこいの百選滝です。

もちろん、これ以外にも、簡単にたどり着ける滝はたくさんあります(百選・非百選を問わず)。

そして、鉄道旅行としての面では、6日間にも及ぶ、自身最長の旅行。

無事、帰れたことについての安堵は非常に大きいものがあつた。

また、多くの滝に触れ、郷土を知り、あらゆる面で、自らの糧となった。

大学受験を来年度に控える身ではあるが、時間があれば、また滝巡りをしに行きたい。

ええま、もちろん日帰りです。

(すると必然的に、袋田の滝・養老溪谷・本棚など、関東の近場にまで絞られてしまうのですが)

はい、最初から最後まで滝一色な旅行記でしたが、

今回、この停車場第15号の冊子をお取りになり、

現在このページを読んでいらっしゃる来校者の皆さま、

本年度は第64回高輪学園高学祭、及び、高輪学園

旅行・鉄道研究部にお越しいただき、誠に有難うございました。

来年以降も、どうか旅行・鉄道研究部をよろしくお願い致します。

◎

(*1)・・・実はこの座席、足元に電源コンセントがある。125Vで、携帯電話の充電は可能である。

(*2)・・・高2のHP班班長の方で、九州へ行ったあと、この日のながら号で帰られたそうです。

(*3)・・・深田久弥氏選考の百の山が一般にも広まった百選ですが、二百選・三百選は有志によるもの。

◎今回の写真集です。印刷の都合上、つぶれて見られない可能性があるうえ、◎
所謂「オマケ」ですので、適当に読み流していただいてもかまいません。



特急くろしお2号 新大阪ゆき
新大阪駅 11 番線にて



関空特急はるか 27 号関西空港ゆき
京都駅 30 番線にて



E257 系にはこんな定期運用もある。
松本駅 5 番線にて



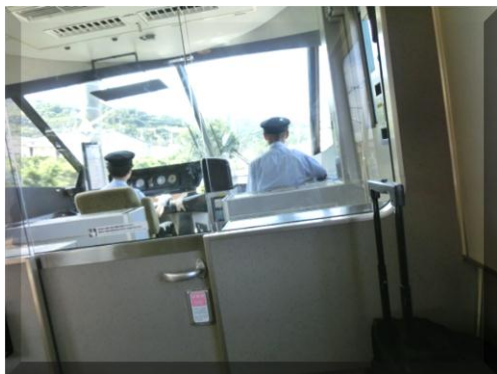
座席転換してもこんなに隙間が！
287 系こうのとり 23 号車内にて



人工物とはいえ、なかなか涼しげだ。
平湯大滝遊歩道途中にて



小海線の全車に張られています。
小淵沢駅 4 番線にて



振り子のはたらくとここまで傾くぞ！！
冷水浦～加茂郷 間にて 少し誇張すぎたかも。



287 系の(半室)グリーン車です。 新大阪駅にて



小海線 E200 系 小諸ゆき 清里駅構内踏切にて



大自然の脅威……(長野県松本市中の湯付近にて)

ご閲覧ありがとうございました。これからも停車場をよろしく願います。

高輪学園
旅行・鉄道研究部
旅行班